条幅規定参考手本　―8月末日締切―

〈隷書〉



山本飛雲先生書

（この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする）

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉



井之上南岳先生書

□秋風扇を棄て命を安んずるを知り　小灶灯を留め生を養うを悟る（不詳）

次号予告「一雨送晴初月色　百蟲專夜胡秋聲」

〈行　書〉

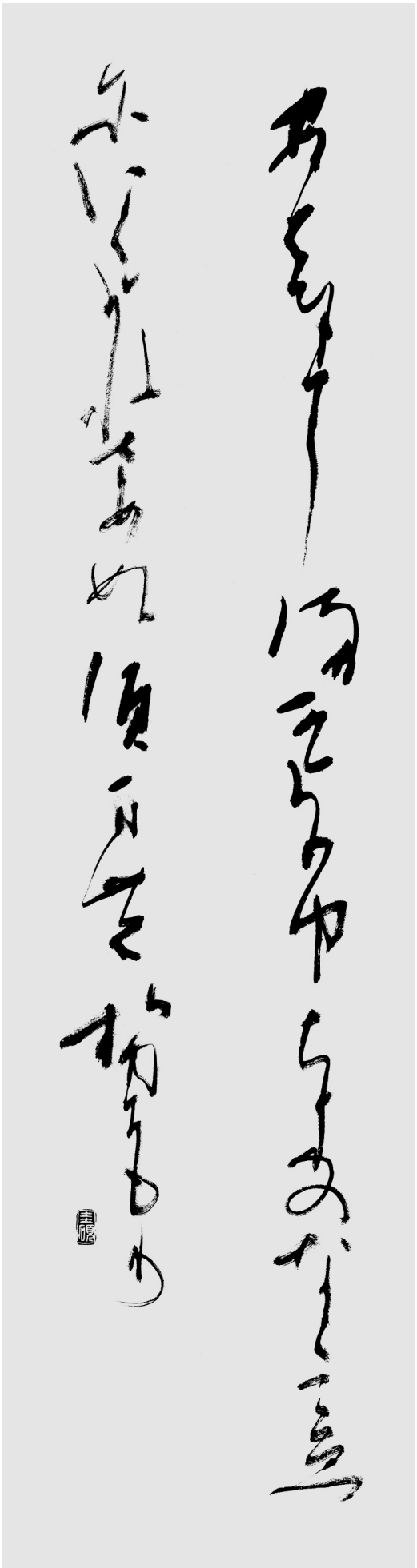


清原大龍先生書

▽秋風のために棄てられたうちわを見て、天命に安んずる理を知り、一本の灯芯で火がともるのを見ては、養生の方法を悟った。

舟尾圭碩先生書

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□あ者遅（はち）し満（ま）可（か）よ布（ふ）ちとりの　なくこゑ尓（に）　いくよねさめぬ　須万農勢支（すまのせき）もり　〈百人一首　七十八〉

淡路島　かよふ千鳥の　なく声に　幾夜ねさめぬ　須磨の関守

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）



吉田成美先生臨

▽鄭羲下碑

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



親賢司徒武以善職並歌緇衣之作誦乎

吉田成堂先生書

□「昔と今」　尾崎喜八の詩　暑い　甘美な　力ある自然　雲の割目の桔梗いろ　頬白の午前の歌よ

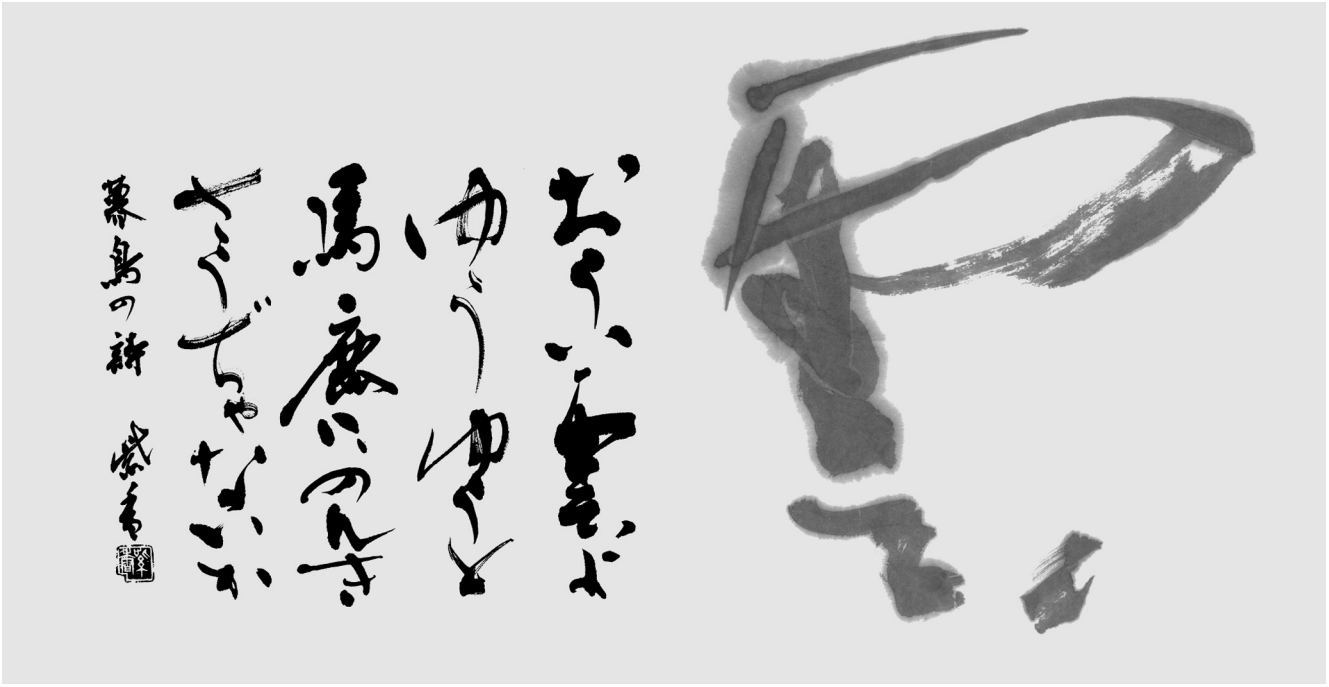
≪手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。≫

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½横のみ）　―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

≪手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。≫



坂元紫香先生書

□「雲」
山村暮鳥の詩

おうい雲よ
ゆうゆうと
馬鹿に
のんきさう
ぢゃないか

青空に浮かぶ〝雲〟をイメージして、淡墨と濃墨を使って書いてみました。
みなさんもいろいろと挑戦してみて下さい。



小畠秋聲先生書

□「高臥（こうが）」
晋書

世俗と離れて暮らす

「高」で内に強さを秘め、「臥」で外へ放つ開放感を表現してみようと思いました。

※半折½横の出品票は作品の左下に貼って提出下さい。

半紙規定参考手本　　―8月末日締切―

（この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする）



□急を周（すく）うも富（と）めるを継（たす）けず（論語「雍也」）
困っている者には援助するが、富裕な者には援助しない。

次号予告「秋花冒緑水」

吉　田　成　美　先　生　書

半紙規定参考手本　　―8月末日締切―

（この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする）



□急を周(すく)うも富(と)めるを継(たす)けず（論語「雍也」）
困っている者には援助するが、富裕な者には援助しない。

吉　田　成　美　先　生　書

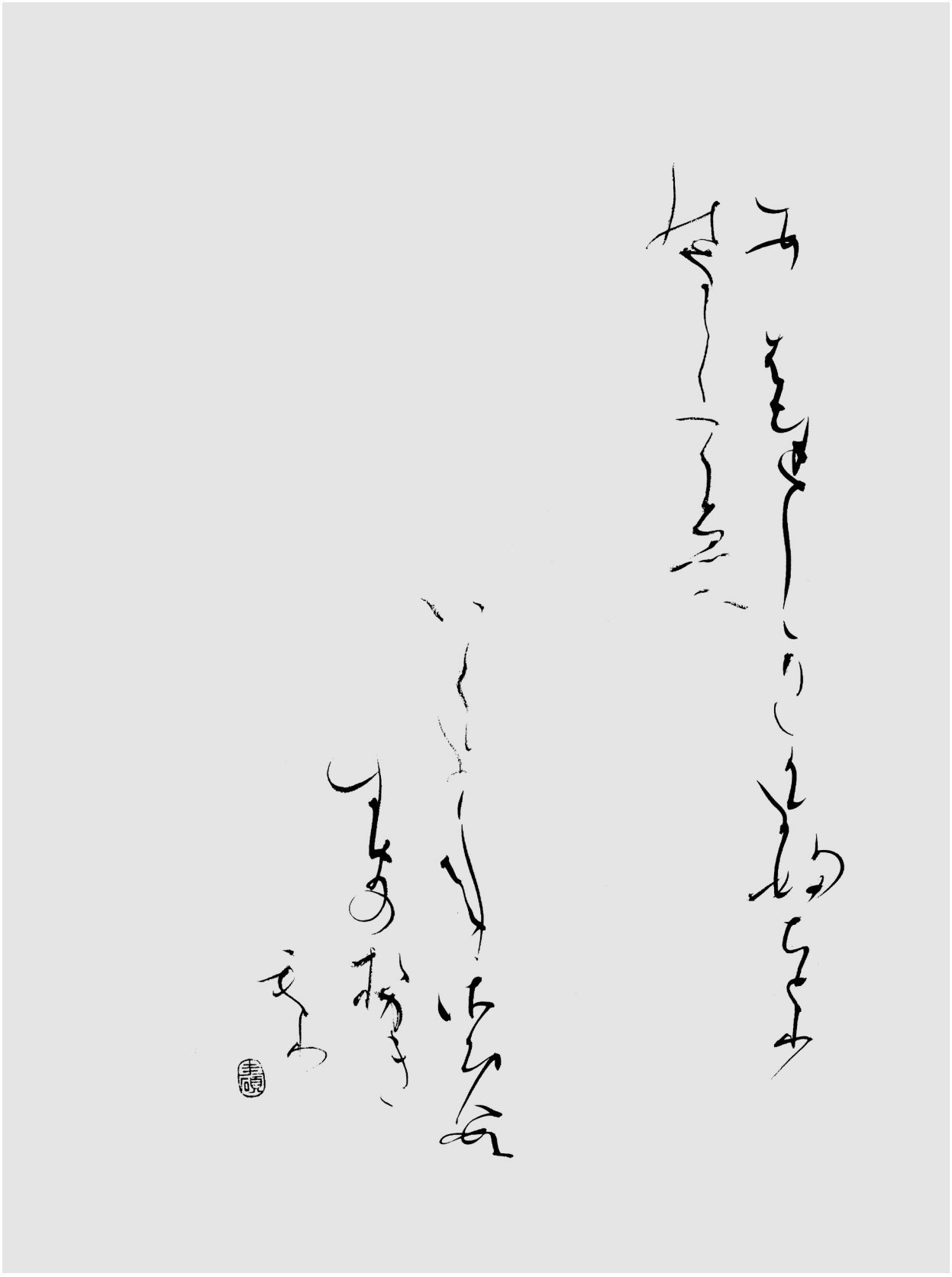
次号予告「秋花冒緑水」

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

〈仮　名〉

あ者遅（はち）し万　可（か）よ婦（ふ）ちとり能（の）　なくこゑ二（に）　いくよ年佐免（ねさめ）ぬ　す末（ま）の勢（せ）きもり



淡路島　かよふ千鳥の　なく声に　幾夜ねさめぬ　須磨の関守

舟　尾　圭　碩　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

〈詩文書〉　与謝蕪村の句　朝がほや　一輪深き　渕のいろ



※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。（ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください）

渡　邉　大　嶽　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□如鳥過目　（晋・張協「雑詩」）
鳥の目を過ぐるが如し〈時が速く過ぎ去ること〉

清　原　大　龍　先　生　書

次号予告「閑靖少言」

半紙随意（臨書）参考手本　　―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）



「親賢司徒」

〈臨書〉　蔵鋒を意識し、ゆったりと線を沈める気持で書こう。

吉田成美先生臨

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

〈実用書〉

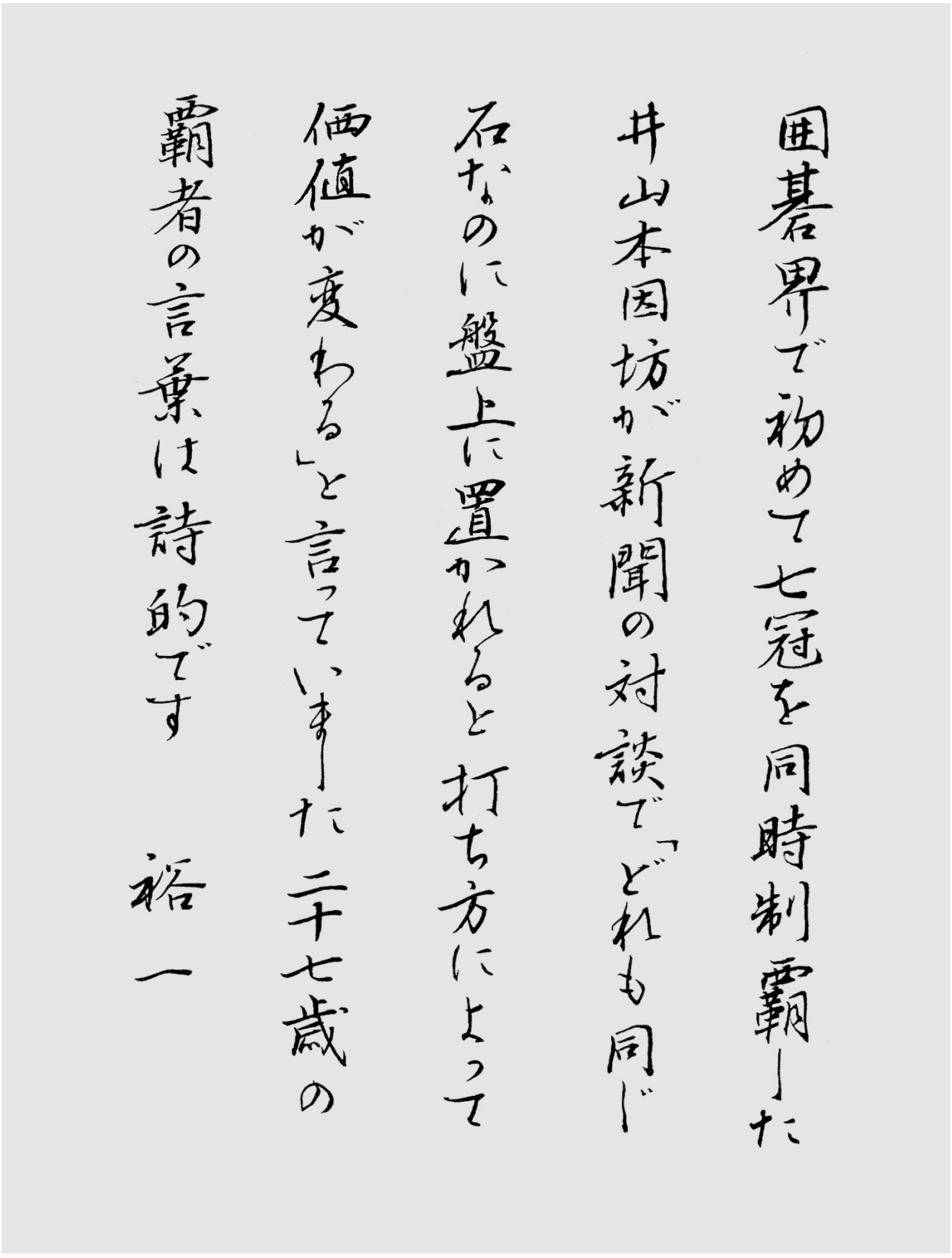
立秋　初盆　ゆかた姿の子ども　残暑　虫の音　ゲリラ豪雨
木陰　百日紅　線香花火　芙蓉　土用波　終戦記念日



秋　永　春　霞　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



〈手紙文〉

囲碁界で初めて七冠を同時制覇した　井山本因坊が　新聞の対談で「どれも同じ石なのに盤上に置かれると打ち方によって価値が変わる」と言っていました　二十七歳の覇者の言葉は詩的です

大　坪　桂　子　先　生　書

一般硬筆部参考手本＜A＞ ―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目Ａ・Ｂのいずれか一点のみとする）

〈暮らしに役立つ書〉

書譜

予報通り連日の猛暑ですが、皆さん
お変わりございませんか。
お嬢さんも一歳のお誕生日を過ぎ、毎日
元気に遊んでる御様子。歩くのも随分
上手になったことでしょうね。
先日、可愛らしい墓手を見つけました。
金魚柄と花火柄で悩みましたが、決められ
ず、どちらも買ってきました。この夏に是非
着せてあげてくださいね。
章子

罫のある便箋に書いてみよう。〈26cm×18cm〉紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵頭白慧先生書

一般硬筆部参考手本＜B＞ ―8月末日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目Ａ・Ｂのいずれか一点のみとする）

宿題を先に延ばし、最後の日を暗黒
と過ごすことを繰り返した。こんな調
査がある。宿題を後回しにする傾向の
強い人は弱い人より、飲酒、喫煙、ギャ
レブルの習慣を持つ人が多いという。

段　級

氏　名

小　畠　秋　聲　先　生　書

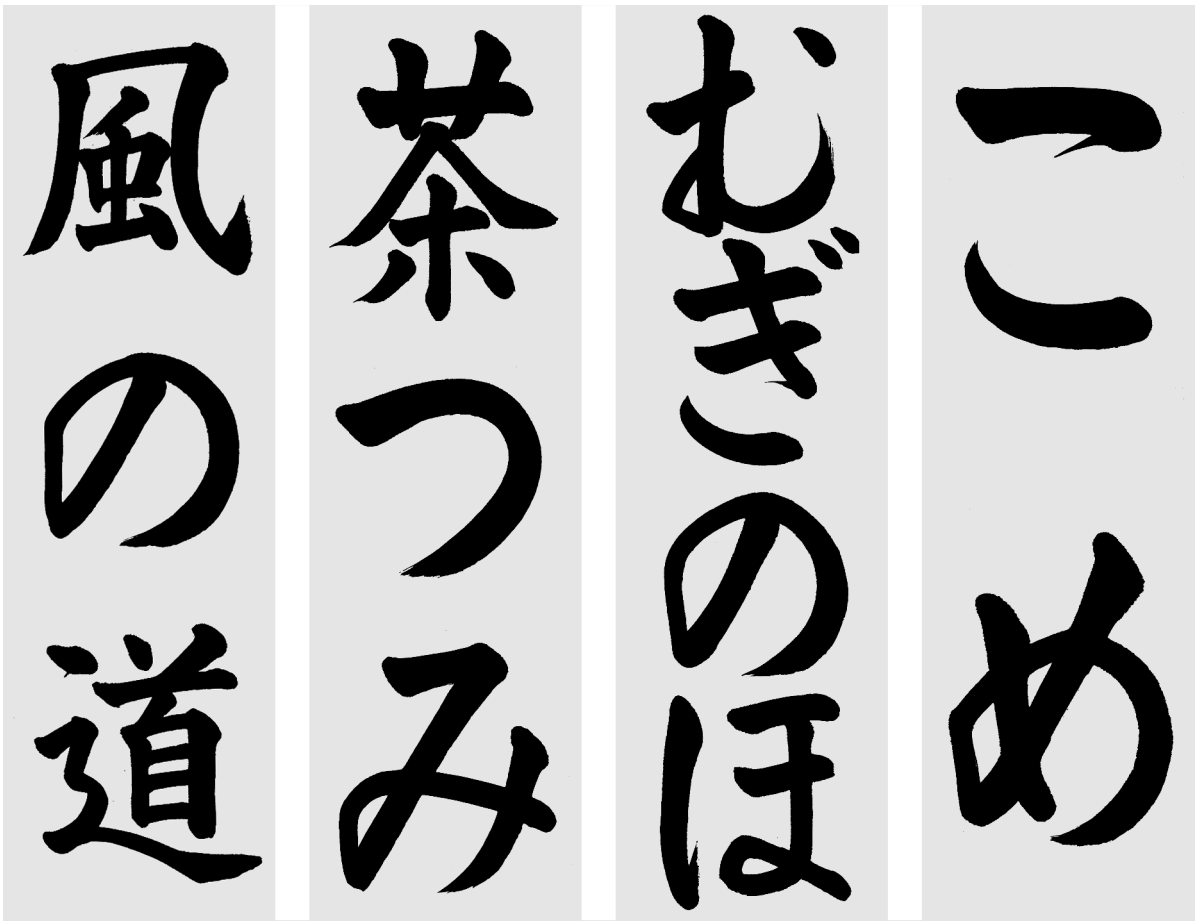
今月のかきかたドリル　（形や注意する点に気をつけてゆっくり書こう！）

中　学	小学６年	小学５年	小学４年	小学３年	小学２年	小学１年	ようねん
刻	陽	職	駅	物	町	む	や
刻	陽	職	駅	物	町	む	や
刻	陽	職	駅	物	町	む	や

一般の方も是非チャレンジしてください。

坂元紫香先生書

学生部条幅¼　参考手本　　―8月末日締切―



ようねん・小学1年　小学2年　小学3年　小学4年

小学5年　小学6年　中学1年　中学2・3年

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

坂元紫香先生書

〈条幅¼＝四尺画仙紙半折¼…68cm×17・5cm〉

ようねん・小学一年



□「こ」は〝ハネ〟の方向に、「め」は一画目と二画目の書き始めの位置に気をつけましょう。

次号予告「バ　ラ」

小学二年



□「む」「ほ」の〝むすび〟は筆の軸を指でまわさないように気をつけて書きましょう。

次号予告「ほしぞら」

坂元紫香先生書

小学三年



□「茶」は〝冠〟と下部のバランスに注意し、ひらがなは懐を広く、伸びやかに書こう。

次号予告「つり糸」

小学四年



□「風」「道」の〝部首〟とのバランスや、大きさに注意し、元気のある作品に心がけよう。

次号予告「中　秋」

吉田成美先生書

小学五年



□「秋・夜」の〝右払い〟の位置に気をつけて。「長」は五画目の横画でほぼ二等分できるように。

次号予告「実りの里」

小学六年



□「天」は横画の長短に注意し、他の三文字は〝へん・つくり〟のバランス、点の位置もよく見て。

次号予告「創　造」

秋永春霞先生書

中学一年



□筆の穂先を使って、線の強弱、画数の変化に注意し、明るさのある作品に心がけよう。

次号予告「月　光」（行書）

中学二・三年



□墨をしっかりとつけ、リズムに乗って行書の筆意を意識して伸びやかに書こう。

次号予告「夕映えの空」（行書）

吉田成美先生書

学生硬筆部規定参考手本　—8月末日締切—

ようねん　（※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてもよい。但、審査は従来通りです。）

段級								
氏名								

なつやすみ　うみ
はなびたいかい

たな「とめる」つつや

段級								
氏名								

おむすびたくさん。
ありがとう。
おいしいごちそうさま。
どうぞ。

小学一年

こむこととあいと「とめる」

坂元紫香先生書

小学二年

町の　中を　たん
けんすると、いろ
いろな　できごと
に　出会います。

段級

氏名

小学三年

生き物たちとのつながり
をかんじる里山。大切
にすべき、しぜんからの
おくり物だと思います。

段級

氏名

坂元紫香先生書

学生硬筆部規定参考手本

―8月末日締切―

小学四年

駅には、戦争に行く人がある
って、ときどきばんざいの
声やまた、たえず勇ましい
軍歌が聞こえてきました。

段級

氏名

坂元紫香先生書

小学五年

どうしたら、古代の人々に負け
ないものをつくれるのか。一流
の職人たちが日本中から総動
員された。建物をつくる宮大工。
かわらを作るかわら職人。

段級

氏名

小畠秋聲先生書

小学六年

聞こえるのは、力ヤックのオール
が水を切る音だけです。少し、風が
出てきました。白い太陽が、ぼうっ
と現れては、消えてゆきます。ゆっ
くりと、きりが動いているのです。

段級

氏名

中学

普段、おかずの支度は全て姉がして
いるが、今夜はキャベツを細く刻む
だけにして、フライは父親が自分で
揚げた。煮えた油の中でパン粉の焦
げるいい匂いが、家の中に籠もった。

段級

氏名

小畠秋聲先生書